

## ドン・ホセはなぜカルメンを殺したか

情報工学科 2年 S. O.

カルメンを視聴して疑問に思ったことがある。物語の結末は、ドン・ホセがカルメンを殺害するというものだった。4幕の途中から現れたドン・ホセはとてもやつれていて、追い詰められているように見えた。では、なぜ彼は殺しを犯してしまうほどまでに追い詰められてしまったのか。この疑問について、ドン・ホセの周りの環境や、人間関係などと照らし合わせて追及していこうと思う。

まず、一番大きな要因として考えられることは、○カルメンによってドン・ホセの世界が壊されてしまったことである。具体的には、彼女を愛してしまったことによってドン・ホセは職を失い、それどころか密輸集団に引き込まれて、軍人という立場から犯罪者になり下がってしまった。彼の階級である伍長という立場は、まだ若い彼には決して悪い階級ではなかった。○彼が自分の職に未練があったことは、2幕のやり取りからも分かる。カルメンに関わったことから、ほとんど不可抗力のような形で自分の職を捨てさせられたことは、彼にとっては非常に屈辱であり、さらには自分の生活さえも脅かすことであった。かくして彼はカルメンを手に入れるのと引き換えに、それまでの自分の生活を捨てることになった。そしてそれは、○カルメンのことを愛し続けるという道以外に選択肢がなくなってしまったことを意味する。○そのカルメンが、4幕では違う男(エスカミーリョ)と愛し合っているとあれば、ドン・ホセがカルメンを憎む気持ちも非常に納得できる。

しかし、職を失ったとはいえ、彼にはまだ母親がいたはずだ。家族さえいれば、まだやり直すこともできたのではないだろうか。そこで、一つの可能性について考えて見ようと思う。

実は、ドン・ホセの母親は4幕の時点でもう亡くなっていたのではない。さらには、母親が亡くなる場所に立ち会えなかったという可能性も考えられる。3幕でミカエラに連れられて帰郷する時点で、母親は危篤状態であった。急いで帰ったが、間に合わなかったということも十分にあり得る。もしドン・ホセがカルメンに惑わされていなかったら、せめて親の死に目には立ち会うことができたであろう。なぜなら、1幕の時点でミカエラは彼のことを故郷に連れ帰ろうとしていたからである。

ドン・ホセは職も、恋人も、そして家族までも失ったことになる。それもほぼ同時期に。○カルメンに関わらなければ、このようなことにはならな

っただろう。こうして、ドン・ホセの精神は壊れていったのだ。

初めて『カルメン』を観たときは、ドン・ホセがカルメンを殺したのは、ただ彼女のことを深く愛しすぎていたからだと思っていた。しかし、上述したような背景を考えた結果、彼の感情の中には純粋な憎しみも多く含まれていたのではないか、という結論にたどりついた。